

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No. 171 平成30年10月15日

発行 社会福祉法人 武蔵野会
本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509

<http://www.musashinokai.jp/>

特集 みんなの—推しアート作品



トピック

福祉は時代の真ん中にある 最先端の仕事

最近の報道で、多くの中央省庁が障害者雇用の水増しを行っていた実態が明るみとなり「我が事丸ごと共生社会」という国のスローガンに水を差す状況です。その上、日本の現状は非正規雇用労働者の増加、格差の固定化、少子高齢化と人口減少、子どもの貧困、引きこもりや社会的孤立、生活困窮者の増加等が他国と比べても顕著です。

そうした情勢の中で、「輝かしき社会福祉法人の創生」をテーマに第37回全国社会福祉法人経営者大会が長野市で行われ参加してきました。2日間にわたる講義と分科会、パネルディスカッションが行われ1094人が参加しました。課題先進国の日本で、社会福祉法人の実践はどうあるべきかを様々な報告で学びました。講義で頭に残ったのはソーシャルブランドデザイン論です。「社会福祉に関わるメディアのネガティブ情報に負けず、社会福祉で働く人達が意識改革し、福祉が時代の真ん中にある最先端の仕事であるという自覚とプライドを持ち発信する必要がある」と、元博報堂職員で「社会の広告会社」を立ち上げた山田英治氏が語りました。映像を通して社会福祉に付加価値のあるイメージを醸成させるブランディングに着手し効果を上げているだけに、法人間の差別化などと小さい視野で福祉を考えている時代ではないと考えさせられました。

国連開発計画の持続可能な目標（SDGs）では2030年までに達成を目指す17項目を掲げています。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「全ての人に健康と福祉を」等々、福祉に関連する目標が多く、福祉の仕事が日本のみならず世界で時代の最先端で、最も必要な仕事であることを確信しました。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 高橋 信夫

特集 みんなの1押し アート作品

みんなの工房

リアン文京

リアン文京では製作グループ「みんなの工房」で様々な作品、製品を作っています。様々な事業を利用する皆さんが垣根をこえて力を発揮する場として昨年度から展開しています。



優しい色合いの型染パラソル

いますが、先生には技術面の指導だけでなく作品、製品のアイデアも提案頂いています。工程は、布に模様となる型を置き、染料を使って色を乗せます。きれいな発色に仕上げるために筆使いが重要となります。利用者の方たちの繊細な指先の動きや柔らかな力加減が欠かせません。こうして仕上がった型染めは、定番のハンカチやコースターだけでなくポーチや日傘に加工され素敵な製品としてラインナップに加わります。

昨年のお祭りでは利用者と職員全員が染めの工程に携わり反物を作品として展示しました。

「友禅流し」のテーマで、区内を流れる神田川の「四季」を表現する作品に仕上げました。京都の職人がアンティークの着物から戻した反物に四季それぞれの模様である花や金魚、紅葉、雪の結晶などの型に色を乗せる工程や染料を乾かす工程に全員が参加しました。普段から型染めを行っている利用



友禅流し、きれいに染まった反物

者さんは慣れた手つきで進めていましたが、初めて型染めに取り組んだ利用者さんと職員は一から筆の持ち方を教えてもらい、慎重に作業を進めました。皆さん真剣な表情で取り組んでいたのが印象的でした。一人が担った工程は5cm程度の小さな柄ですが、完成した反物が展示スペースに飾られるとそのスケールの大きさに驚きと歓声が沸き上がりました。まさに「全員参加」となったこの反物は「みんなの工房」のメイン作品として来場者の目にとまり好評を博しました。祭り終了後、この反物は利用者さんの手によって東袋に

変身を遂げました。

この型染め製品の一部は東京都工賃向上プロジェクトの一環である「KURUMIRU」出品商品として認められ、トートバックや巾着を出品する予定になっており、現在急ピッチで準備を進めています。

一人ひとりの表現を一つのアートとして世に発信すること、それらを製品という形にしてより多くの人たちの目に触れ、手に渡っていく仕組みを拡大発展させていくことが今の私たちの目標となっています。これからも利用者皆さんと心温まる作品、製品作りを目指していきます。

ギャラリー・藤井工房

第2大島恵の園

第2大島恵の園では、平成24年から活動の一環として絵画に取り組んでいます。一日15人ぐらいから、多いときには30人ほどが創作室で思い思いの作品作りに取り組んでいます。その中で、大島の工房に作品を展示していただいている方がいます。



金子さん(左)と藤井さん(右)

大島元町の藤井工房は、藤井虎雄さんが代表を務め、大島農民族資料館として、平成11年から喫茶店をかねた工房と資料館を開いています。アンコ人形の彫刻を60年彫り続けた職人(藤井さんの父)の作品を展示すると共に、人形作りの指導もしています。その工房の一角に当園の金子政司さん(65歳)の絵が飾られています。

金子さんの絵は、大島の風景や大島から見える富士山などの風景画や、動物園や水族館で見て印象に残った動物や魚などを、独特のタッチで描く味わいのある作品です。少ない色の絵の具だけで、表現しています。施設のイベントなどでも気に入った方が購入してくれませんが、藤井工房の代表藤井さんが工房にも展示したいと飾ってくれています。



新たな旅立ちを待つウミガメ

藤井さんは大島支庁の福祉課にお勤めの際に、金子さんを心配し第2大島恵の園の開設時に金子さんの入所に関わった方で、それ以来のお付き合いがあり、何かにつけ金子さんを気遣ってくださっています。以前には金子さんもアンコ人形作りに通っていた時期があります。

絵画を始めた金子さんの作品を目にした藤井さんが、展示を申し出てくださいました。一昨年の秋ごろから展示をしていましたが、今年になり、工房のお客さんが波浮港の絵を購入してくれました。また、最近になって新たに海ガメの絵を展示したところ、直ぐに買手が付き、現在は「売却済み」の札が付いて展示されています。金子さんにとっては、自分の絵を評価しお金を出して買ってくれる人がいることは、作品作りの意欲

むさしの武蔵野

夕風の街 桜の国2018

たまたま点けたテレビドラマに引き込まれ、涙が止まらなくなっていた自分に気付きました。

その日は、8月6日、広島原爆の日。ドラマは、NHK広島放送局が開局90年として制作した「夕風の街桜の国2018」でした。

物語は、東京に住む主人公七波の父親旭が広島に行くところから始まります。旭は、原爆で亡くなった実姉皆実の足跡を懸命に調べていました。場面は昭和30年。被爆した皆実は、戦後10年間、家族、知り合いの沢山の命が失われた中、自分だけ生き延びた後ろめたさと、原爆症を発症するのではという恐怖を抱えて生きていました。

皆実に思いを寄せる男性に、自分は被爆したことを内緒にし、忘れたことになってきた辛い気持ちを伝えます。男性はそんな皆実を、生きていてくれてありがとうと答え、皆実は救われるのでした。やっと希望の光が見えかけた皆実ですが、その直後、原爆症を発症し23歳という短い生涯を閉じます。

「嬉しい?原爆から10年たったけど、原爆を落とした人は、『やったあ!また1人殺せた』って、ちゃんと思うてくれとる?」死ぬ間際、皆実が

胸の中でつぶやきます。やっと希望が見えた皆実の無念さ、悔しさ、切なさの中、皆実は一生涯を終えます。

旭は、姉、皆実の人生を娘の七波に伝えます。原爆体験を何も知らずに育った七波は、原爆が自分の家族や広島市民に残した大きな爪痕を知り、思いを巡らせます。

ドラマは、原爆や戦争が、沢山の命を奪っただけではなく、命からがら生き延びた人々たちを、73年経った今も苦しめ続けている現実を静かに、はつきりと映し出していました。広島、長崎への原爆投下から今年で73年、昨年は、被爆者と連帯し、国連の核兵器禁止条約採択に貢献した国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)がノーベル平和賞を受賞しました。しかし、世界には一万五千発の核弾頭があり、「ICAN」が主導している核兵器廃絶は始まったばかりというのが現実です。

戦争、そして広島、長崎に辛い傷跡を残した原爆の記憶は、今もなお沢山の心を苦しめています。私たちは、二度と同じような過ちを繰り返さないように、この記憶を次の世代、そして長く後生にしっかりと繋ぎ、唯一の被爆国として、戦争と原爆の恐ろしさを訴えていく責任を痛感しました。

社会福祉法人武蔵野会

本部長 山田 貴美

に繋がります。最近、馬の絵を見た方が購入した上で、さらに何枚か書いてもらいたいと注文が入るなど、金子さんの作画活動は大忙しです。

kokokara

東堀切くすのき園

昨年10月「第16回くすのき祭」で行ったアトラクション・インスタレーションアートが



素敵な「くすのき」ができました

「kokokara」です。

当園では、利用者みなさんが自由に絵を描くアート活動の時間があります。それぞれに個性を發揮し、色鮮やかで、ダイナミックで、そして幅広い表現を楽しんでいます。先日は、利用者みなさんが描いた絵を立体にして、大きな一本の「くすのき」に組み立てました。

また、「音楽に感情を乗せ、自由な表現で踊る姿、それがアートである」という考えのもとに、ダンス活動も行っています。利用者ご自身の感情を絵やダンスで披露し、「くすのき」から生まれるアート」を空間作品として表現したのが「kokokara」です。祭当日は、最初こそ表現者と鑑賞者が別の空気をまとっています。

ましたが、終わりころには「ここにいるみんなが表現者」である空間を作り出すことができました。くすのき園でのアート活動は、ダンス、絵画、陶芸、紙漉と多岐に渡ります。その中で、みなさんがしたいこと、得意なことを中心に活動を行っています。陶芸、紙漉のように決まった工程が好きな方もいれば、ダンスや絵画のように自由に行うことが得意な方もおられます。一つひとつが個性的で、二つとない作品ができあがります。

完成作品は八王子生活実習所との「HSJ展」、白鳥福祉館、八王子生活実習所、大島恵の園両園との合同展示会「くすのきART展」をはじめ、区内外の作品展、地域イベントにも出展。城北信用

金庫掘切支店様の一部をお借りして、常設展示会も行っています。地域で作品を目にしたいだけでなく、多いことから、絵具やクレヨンなどのほとんどは地域の方からのご寄付です。

「kokokara」は、利用者みなさんが完成させたものですが、地域のみなさんをはじめ、関わってくださったすべての方の真心もたくさん込められている、世界に一つの作品です。

絵画教室

さくら学園

和田さんは家庭での生活が長く、家で絵画を描いていましたが、4年前に施設入所をされ、3年前の「こてんば市民芸術祭美術展」への出展をきっかけに、「もつと上手に絵を描きたい」と希望が膨らみ、御殿場市のカルチャースクールで油絵教室へ通うことになりました。職員が送迎し、月に一度の教室ですが、他の参加者との交流も進み、先生の指導を受けています。本人は「施設に入っても大好きだった絵が続けられる」と喜んでいます。部屋は描いた作品で一杯です。学園では行事の度に個



作品に囲まれる和田さん

展を開いて利用者や地域の方に見てもらっています。

面作り教室

八王子市心身障害者福祉センター

昭和55年5月に作業訓練事業として「面づくり教室」を開講しました。講師を担当いただいたのは聴覚障害者の方です。センターの階段で皆さんをお出迎えしている「おかめの面」もその方の作品です。記録写真には木枠に新聞紙を貼り、この面を制作している先生の姿が写っています。センターや

利用者の皆さんにまさしく「福」を呼んでくれる「おかめの面」を、これからも大切していきたいと思っています。



福を呼びこむおかめの面

みんなのアート

大泉町福祉園

紅葉をイメージして、創作活動で「みんなのアート」を作りました。数日間に分けて10名以上の利用者さんが参加しました。まず、大きな模造紙に、ベースとなる木や幹などを描いていきました。次に新聞紙にクレヨンで、好きな色付けをし、丸めたり破いたりして、木の幹の周りに貼っていきました。個性豊かでカラフルな作品が出来上がりました。



みんなで仕上げた大作です

カメさんルーレット

練馬福祉園

当園の陶芸は、通常活動以外でも楽しめるイベントを定期的に盛り込んでいます。今回は双六ゲームに使う陶器のルーレットを作る事となりました。せっかく作るなら好きな物で、誰が見ても分かる物にしようと、たどり着いたモチーフが「亀」でした。

ルーレットがしっかり回るように調整する事、亀らしさを表現するのがとても難しく、細かい技術を要しました。2週間で作成し、つ



次は何が出るかしら？

いに完成です。利用者の皆さんはもちろん、陶芸体験に参加された地域の方にも大人気です。皆さんも、来園された際には、ぜひこのルーレットを回していただいて下さい。この亀のルーレットが、練馬福祉園と地域を繋ぐ「輪」として回り続けることを祈っています。

顔

九品仏生活実習所

九品仏生活実習所・中町分場の階段、エントランスはちよつとしたギャラリーの趣きで利用者の皆さんが手がけた数々のアート作品が訪れる人達を迎えてくれます。



「顔」

九品仏生活実習所と中町分場では、月2回外部講師の指導でアート活動を行っています。絵画や版画、紙粘土や木片、発泡スチロールなどさまざまな素材を使い個性溢れる作品が産み出されています。誰にも真似できない色使い、素材の組み合わせ、利用者一人ひとりの豊かな感性が表現された作品を観ていると楽しくて幸せな気持ちになります。アート作品は、世田谷区内の作品展や地区事業所合同開催のクローバーアート展に出展し皆さんに披露しています。是非一度、中町分場アートギャラリーにお越し下さい。

大島恵の園30周年

平成元年9月1日、伊豆大島差木地に「大島恵の園」が開設して30周年を迎えたため、9月2日に、地元公民館で記念式典を開催しました。ご来賓の三辻町長、大島恵の園、第2大島恵の園両園第三者委員の皆様、法人理事長、本部長、そして利用者のご家族、職員と総勢80名に参加いただきました。

来賓挨拶として三辻町長から、地元住民との交流や、各種イベントへの参加の他、施設主催の「めぐみまつり」では、地元住民が大勢参加し交流の輪が広がった話など、地域との関係について、大変貴重なお話しを頂きました。

式典では30年の歴史を映像で振り返りました。親亡き後の生活の場として、利用者と職員が総出で自分たちの施設の環境整備に汗を流しました。

当時のお祭りは地元の皆様2000名近くに参加いただき盛大に催されたそうです。それ以外

でも買い物や外食、イベントへの参加を通じて交流も増え利用者の生活が広がりました。

一方で30年の歳月は利用者皆さんの高齢化につながり、お元氣だった方が車いす生活になり、食事は呑み込みやすい刻み食やペースト食が増えました。また入浴も自力では難しい方が増え、機械浴槽を使った入浴など、生活が大きく様変わりしました。現在最高齢の方は85歳で60歳以上の方も32名となり全体の4割を占めています。

今回の式典で30年を振り返り改めて思うことは、何よりも地元大島町をはじめ関係機関、ご家族の皆様を支えられた歴史だったと実感できました。この場をお借りし改めてお礼申し上げます。

今後これまでに以上に利用者の皆さんの生活には細かい支援が求め



多くの方に参列いただきました



自治会長の挨拶

られることと思います。利用者のご家族の皆様から安心して任せて頂ける施設作りと、地元大島町の皆様とも更なる信頼と協力関係を築き、そして大島恵の園と第2大島恵の園が力を合わせ、法人理念である「自分を愛するようになたの隣人を愛せよ」の実践に、取り組んで参りたいと思います。

地域公益実践報告会

リアン文京

リアン文京は「出会う」「交流する」「共に生きる」「支えあう」「育む」「集う」「伝える」「参加する」を柱に、障害のあるなしに関

小平福祉園

小平福祉園では、地域との連携から様々な活動が始まっています。近隣中学校との関係が深まり、中学生のための居場所提供からはじまり、4月から毎月第2土曜日に地域向けの食堂を開店しました。ひとり暮らしの方や様々な親子などが訪れ、民生児童委員が中心となり口コミで広がっています。毎週土曜日は親子の遊び場も開放しています。今後は、地域に一步を踏み出し近隣商店街で地域を巻き込んでのカフェ運営や宿泊体験場所等を展開していく計画です。

きらきら事業開始

すぎな愛育園

「すぎな愛育園きらきら」は10月1日より「児童発達支援センター1」として事業を開始しました。「きらきら」は平成25年10月から児童発達支援事業を運営していましたが、平成27年からは市内で2カ所目となるセンター化についての具体的な協議を八王子市と進めた結果、今回の事業開始に至りました(市内1カ所目は「すぎな愛育園」)。センター化のための園舎増設工事が8月中旬に終了し、木の温もりが感じられる外観と新築



沢山の輪が沢山の笑顔につながります



素敵な園舎ができました



第2大島恵の園

9月から11月にかけて、個別面談をグループ毎に実施しています。御家族に近況を報告します。利用者・家族・職員と一緒に話す大切な機会ですが、利用者の皆さんは少しよそ行きの顔をしています。

すぎな愛育園

9月1日に、八王子市心身障害者福祉センターと共催で「夕涼み会」を実施しました。卒園児も多く来園し、保護者同士や職員と懐かしい話や近況報告で盛り上がりました。和太鼓を自由に叩ける体験コーナーでは、夢中で太鼓を叩くわが子を微笑ましく見守る保護者の姿がありました。

白鳥福祉館

8月8、9日に体験教室を開催しました。地域の子どもたちにご参加いただき、かわいい動物の絵柄をつくり、缶バッチになる過程を一緒に体験していただきました。地域の方とふれあう機会として、和やかに終えることができました。

光が丘福祉園

夏前にフウセンカズラと朝顔を地域のボランティアさんと利用者で植えました。毎日水をあげてボランティアさんと協力して育てました。甲斐あって、綺麗な花が咲き、

種が出来ました。来年もこの種を植えて花を咲かせたいと思います。

すてつぷ

すてつぷでは、オープン参加のサークル活動で、ボッチャを行なっています。ボッチャは、パラリンピック正式種目のユニバーサルスポーツです。誰もが共に楽しめるスポーツとして、体験イベントなども行なっています。

えみふる

千代田区立障害者福祉センター「えみふる」では、毎月行われる町内清掃に利用者の方とスタッフで参加しています。回数が増えるごとに地域の人たちと繋がっていることを実感しています。

大泉町福祉園

ふれあいまつりを7月7日(土)に開催。晴天に恵まれ、来場者、売上げともに過去最高を記録。長期で水道工事をしている三英建設さんが、酷暑対策のミスト噴霧器の設置、テント設置、飲料水の提供など、様々な協力をしてくださいました。

東堀切くすのき園

地域社会での共存共栄から共生をめざす時代。地元町会とは福祉避難所訓練や地域イベントを通じて、近隣の企業とはアート展や研修を通じて、訪問歯科医とは摂食嚥下障害への対応を通じて協働を図るなど、福祉領域をこえた繋がりが資源開拓も大切になっています。



ベルマーク寄付購入

すぎな愛育園

当園では、地域の方々に寄付していただいたベルマークで、この度たくさんのお品を購入させていただきました。災害時に使用できるLEDランタンや懐中電灯、普段の療育で使用できる平均台、トネルや三輪車、行事で活躍するアンブセットやテント、掃除に大活躍間違いなしの高圧洗浄機など



ベルマーク預金で購入

です。子どもたちは新しい三輪車を見つけるとすぐに漕いでまたがり、園庭中を嬉しそうに漕いでいます。これからも子どもたちと一緒に大切に使用させていただきます。ありがとうございます。

お知らせコーナー

10月

- 13日(土) かがやきまつり2018(北町福祉作業所)
- 20日(土) 里フェスタin希望の里 (希望の里) 第17回くすのき祭(東堀切くすのき園) 秋桜祭り (さくら学園) 千代田区福祉まつり (千代田区立障害者福祉センター)
- 30日(火) ハロウィンパーティー (駒沢生活実習所)

11月

- 3日(土) わいわい祭 (世田谷区立世田谷福祉作業所)
- 22日(木) 家族懇談会(八王子市内/第2大島恵の園)
- 23日(金) 激励慰安会 (千代田区立障害者福祉センター) 6ブロックマラソン大会 (武蔵野児童学園)
- 29日(木) 家族懇談会 (千代田区内/第2大島恵の園)

12月

- 21日(金) クリスマス会 (駒沢生活実習所) クリスマス会 (東堀切くすのき園)
- 22日(土) クリスマス会 (八王子生活実習所)
- 23日(日) クリスマス会 (武蔵野児童学園)
- 28日(金) もちつき (駒沢生活実習所)

ショーケース 自主生産品紹介

平日ランチ

八王子福祉作業所

☎042・626・0631

平日ランチを始めました。手作りのクロワッサンプレート¥800はミニグラタン付きの数量限定で、毎朝焼きたてを提供しています。ホットサンドプレート¥800やキッシュセット¥600、ワッフルプレート¥600もご用意しています。プラス¥200でお得なケーキセットにも出来ます。

また、ランチの開始に伴い、平日の開店時間が1時から10時になりました。



クロワッサンプレート ¥800

ジャム

烏山福祉作業所

☎03・3326・8001

ジャムで使用する果実はほぼ近所の軒先に実る果実を提供いただいているものを中心となっています。

ご近所産の果実を利用者・職員で収穫させていただくため、バリエーションも豊富で量も様々です。ジャムの通じたつながりとジャムの種類はどんどん増えています。



美味しいジャムが勢ぞろいです

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する25施設と8つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3
電話・FAX 042-626-9772

【お詫び】前号170号4、5面の「法人単位貸借対照表」と「法人単位事業活動計算書」に、誤って前年度の資料を使用しました。また、7面中段の記述の一部にずれがありました。8面では、「永年勤続表彰者」氏名の一部に誤りがありました。関係各位に大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。